

平成 25 年度 第 1 回 石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成 25 年 5 月 24 日（金） 午後 2 時～ 4 時

会 場 石狩市公民館第一研修室

出席者 委 員 長：木村純

副委員長：大橋修作

委 員：高橋たい子、設楽正敏、石井量子、山田治己、佐久間有里、青木昭子、宮田あゆみ、
相馬保、大黒利勝、古村えり子、光川怜子、高橋美恵子

事務局 生涯学習部：部長 百井宏己

社会教育課(兼公民館)：課長 東信也、主査 樋口潤作、主査 斉藤晶

社会教育主事：西山隆之（兼社会教育課主任）

文化財課：課長 工藤義衛、市民図書館：主査 寺尾陽助

傍 聴 無し

会議内容

1 鎌田教育長あいさつ

みなさんこんにちは。今日は今年度 1 回目の社会教育委員の会議ということで、お忙しい中お集まりいただき、お礼を兼ねて一言御挨拶申し上げます。日頃、本市の生涯学習、および社会教育にそれぞれの立場で御理解と御協力をいただいておりますことにあらためて感謝申し上げます。昨今の生涯学習、社会教育の現状を考えますと、色々な社会構造の変化、さらには教育上の課題などを受けて、ひとり一人の個性を伸ばし、人生を主体的に生きる自立と、共に支え合い高め合う協働、そして新たな価値の創造が可能となるような生涯学習が今求められているところであります。今年度の教育行政執行方針の中でも触れさせていただいておりますが、ふるさとに愛着を持ち、主体的にまちづくりに参加する市民の育成を目指し、本市が持つ多様な資源を活かし、市民ひとり一人が互いに学びあいながら、自ら進んで学ぶことに、喜びや生きがいを感じることができ、そんな生涯学習の推進をこれからもはかかってまいりたいと考えております。これまで様々な取り組みを実施しており、例えば、子どもたちの豊かな情操を育む「おしゃべランド」、市民が自ら学びを進める「いしかり市民カレッジ」などを実施してまいりました。また、今年度 1 回目の会議が昨日開催されましたが、地域が学校を支える仕組みである、学校支援地域本部事業がそれぞれ進められてまいりました。

平成 26 年度が、今期教育プランの最終年度となります。次の 5 ヶ年の取り組みに向けて、これまでの取り組みについて、それぞれ検証しながら、成果と課題を整理する時期を、間もなく迎えようとしております。委員の皆様におかれましては、今後本市の進むべき方向性について、熱心な議論を展開していただき、本市の生涯学習と社会教育の更なる充実と、課題の解決に向けて沢山の御意見をいただきたいと考えております。

2 木村委員長あいさつ

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は、全体の審議と、皆様に御回答いただいたアンケート結果をもとにしながら、社会教育委員が中心となっていく、市民を対象とした講座の企画について議論する予定です。私としては、丁寧に取り組むけれども、私達自身も楽しみながら取り組む内容にしたいと思っておりますので、積極的な御意見をよろしくお願いします。

3 報告

(1) 平成 25 年度石狩管内社会教育委員連絡協議会総会（4 月 24 日 北広島市）

(大橋副委員長より報告)

北広島市芸術文化ホールで開催された、管内社会教育委員連絡協議会総会に出席してきました。詳しくは事前に配付されている総会資料をご覧くださいと思いますが、この協議会は、石狩管内の社会教育の充実を目的とした、管内 7 市町村の社会教育委員により組織されています。事務局と役員が管内市町村で持ち回りとなっており、今年度と来年度は、石狩市が監事になっていることから、委員長の代理で私が監査をしてまいりました。

この協議会が実施している事業がいくつかございますが、今年度も、石狩管内社会教育委員等研修会が 10 月に新篠津村で開催予定とのことですので、案内が届きましたら、委員の皆様に参加について、あらためて調整していただければと思います。他にも予算や前年度の事業報告などがございますので、資料をご覧ください。以上です。

(2) 芸術文化振興奨励補助金について

(事務局 西山社会教育主事より説明)

社会教育課では、毎年、石狩市芸術文化振興奨励補助金を募集しております。例年ですと、年度当初の社会教育委員の会議において、応募案件について審議いただくこととしており、昨年度も第 1 回目の会議において、案件について審議いただいたところです。今年度は広報 4 月号に掲載して募集いたしましたが、応募案件が無かったということを受け、事務局としては今後再募集をかける方針で考えております。時期等については現在検討中ですが、その方向であるということをご報告させていただきます。

木村委員長：応募が無かったということについて、何か考えられる理由はありますでしょうか。

西山社教主事：特段、明確な理由というものはありませんが、様々な社会教育関係団体の周年事業が、過去 1～2 年の間に集中していた経緯があることから、今年度は、その周年事業の節目にちょうど当たらなかったという可能性もありますが、正確な実状は把握しきれておりません。

木村委員長：せっかくの補助金ですので、再募集をしていただければと思います。委員の皆様も、周囲の団体などにお声がけをしていただければと思います。

(3) 文化財保護審議会の答申について

(文化財課 工藤課長より報告)

答申の内容については、既に皆様のお手元に資料として配付されておりますので、私からは要旨を説明させていただきます。

平成 23 年 10 月に、「これからの石狩市郷土資料の在り方について」として、文化財保護審議会に諮問されたもので、今年の 3 月に答申が出されました。

第一に、郷土資料の在り方でございますが、通常郷土資料と言葉からは骨董のような古い器物のイメージがありがちと思いますが、今回の答申における郷土資料とは、そういった有形の文化財のみならず、自然や地形など、有形無形に関わらず広く見ていく必要があるとして答申されました。厚田、浜益と合併した現在の石狩市に合った文化財・郷土資料の活用、そしてその活用の中で、全市的なネットワークが必要であるという答申をいただいております。連携・ネットワークを図る上で、図書館や公民館といった社会教育施設およびその職員と、砂丘の風資料館および文化財課職員とが連携を図ることが非常に重要になるであろうということです。また、全市的な活用・保存をネットワークにより進めていく必要もありますが、その活用・保存においても、中核となる施設が必要であるという答申をいただいております。これらの答申をふまえて、内容の実現に向けて進めていくわけでございますが、答申の中でも、社会教

育施設との連携が指摘されており、社会教育課・公民館との連携の点から、今後ご協力をお願いをすることがあるかと思しますので、委員の皆様のご理解をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

木村委員長：文化財・郷土資料を幅広くとらえていく必要があるということですね。厚田、浜益を含めた石狩市全体で、どのように考えていくべきか、というのが答申の中心になっているのだと思います。地域の社会教育、生涯学習の中でどのように活かしていくか、私達も答申の内容を振り返りながら考えていきたいと思っています。

高橋美恵子委員：マクンベツの水芭蕉や防風林なども対象になるのでしょうか。

工藤課長：個別に指定してはおりませんが、文化財の考え方の中に「天然記念物」というものがございまして、自然も対象に含んでおります。一つのものについても、自然保護の立場と文化財保護の立場の、両方の立場がありえます。

大黒委員：厚田区の資料館ですが、昔、私がアドバイザーをしていた頃は、年間400人程度の入館者しかいなかったと思います。当時の展示は、農業や水産業など、総合的な展示内容でした。それでは足りないということで、厚田にゆかりのある4名の著名な人物を中心に展示いたしまして、今では年間2,000人ほどの入館者がおり、今でも段々と増えております。資料館などの施設については、PR方法を色々と考える必要があるということをつくづく感じます。

木村委員長：入館者が400人から2,000人に増えた一番の要因は何でしょうか。

大黒委員：厚田公園内に戸田城聖の生家もありまして、その関係者の協力も大きかったのではないかと思います。

相馬委員：私も各地の資料館などを見学してきましたが、全国を歩いている先生方の意見を聞く機会がありました。その中で、旧浜益村の資料館は、様々な資料が揃っているけれども、展示の仕方が良くないと言われました。例えばニシン漁に関する資料は良いけれども、それ以外にも色々な資料が混在していて、見学者からすると見づらいとのことでした。職員がもっと研究して、地域の声を聞いていかないと、本当の資料館とは言えないとの指摘を受けました。狭いスペースの中で、あれだけ多くの資料を展示しているのは、見学者にとってもわかりづらいと思います。これから厚田、浜益、石狩の資料館を含めて、総体的にどういう施設にして行くのか、検討したいと思っています。はまます資料館に関して言えば、もっとスリム化して、本当に浜益住民のための資料を選別して、資料館としての意義を作っていってほしいと考えます。

木村委員長：厚田、浜益の郷土資料についても、むしろ石狩市全体で活用して学ぶというという見地については、社会教育委員としても同様の考えであると思しますので、今後何らかの形で検討してまいりたいと思います。

山田委員：厚田・浜益のことを市民に知ってもらおうと、いしかり市民カレッジで7月に講座を開催します。平成17年に合併してから、石狩市民が厚田、浜益のことをあまりよく知らないことがアンケート等でわかりましたので、この講座を企画しました。実際には、距離が遠くて車が無いとなかなか行けないということもあり、市民カレッジの構想でもあった、厚田・浜益キャンパスが実現できずにおりましたので、今回がそのきっかけになればと考えております。

また、答申の中にもありましたが、資料館の中核的施設を、今後花川地区に作る展望があ

るのか、また、施設の広さや整備を含めての展望もあわせてお伺いします。

工藤課長：答申の中で、中枢施設を考える際の要件がいくつかございます。その中で、社会教育施設の連携が挙げられております。これは図書館、公民館を指しており、これらと物理的に近い場所である必要があります。また、石狩市の現在の人口は明らかに偏りがあり、人口の9割近くが住んでいる花川地区が候補地になるかと思われます。次に、厚田、浜益の資料館の狭さや古さが指摘されておりますが、これについても答申の中で、施設上の問題点として触れられております。中枢施設を考える際にはそれらの問題点についても解決する必要がありますし、さらには、広いまちを広いままに、いかに繋ぎ合わせて活用していくかという点で、ネットワークが必要であるという内容の答申と解釈しております。

大橋副委員長：公民館講座企画ボランティアを担当していたとき、厚田・浜益の講座は申込者も多く、市民の関心も高いことが分かりました。今回の市民カレッジの企画は大変良いと思います。個人的に行くのも良いのですが、このような場があると、市民にとってより多くの学習機会が提供されると思います。

相馬委員：浜益の場合、資料館ができた当時は、地元で漁業等に従事していた方達が館長を勤めていましたので、都会から見学者が来ても、色々説明することができました。しかし、今はなかなか人材が無く、職員2名が交替で勤務していますが、当時のことは説明できない状況にあり、見学者が少なくなっているという傾向があります。資料館には、地域のことをある程度は説明できる人材を配置しないと、見学者は増えないと思います。また、はまなす資料館には、当時ニシン漁で使った大きな船が格納したままになっています。そういった資料を、しまい込んだまま朽ちらせるよりも、積極的に公開して、少しでも見学者を増やす方法を考えなければならないと思います。また、国道からはまなす資料館に入る道路沿い1キロメートルほどに、当時浜益高校の生徒が10年ほどかけて、はまなすを植樹しました。しかし、今では毎年雑草刈りをする時に、高校生が何年もかけて植えたはまなすも刈ってしまうのです。はまなすは切ってもまた伸びてきますが、雑草だけ刈るようにしていただきたいと思います。そういった環境も含めて、少しでも多くの見学者が訪れるような状況をつくる必要があると思います。

木村委員長：厚田・浜益の地域課題や、旧石狩地区の住民の方々が自分のまちを知ることなど、社会教育上の様々な課題があると思います。

4. 議題

- ・(仮) 市民講座「石狩市のコミュニティの現状」の取り組みについて

木村委員長：昨年度の第2回目の会議で、地域コミュニティの課題や実態について、皆様からご意見をいただきました。それを基に、社会教育委員の会議でどういう取り組みをするかについて、第3回目の会議で私から原案を提出させていただき、市民の方々も含めて、石狩市のコミュニティ、地域の現状について学習していこうという議論になりました。その後、講座の開催時期や回数について、事務局を通して委員の皆様アンケートを実施させていただきました。委員の皆様におかれましては、御協力いただきありがとうございました。この調査結果も踏まえながら、講座の具体的内容をどうするかについて、今日は議論いただきたいと思います。なお、内容案については、私と事務局とで打ち合わせをして、若干の修正をしたものを本日あらためて御提案させていただきます。

まず、テーマについては、現状で良いとの回答が11人、統合した方が良いとの回答が3人

でした。そのうち、高齢化と厚田・浜益を統合したほうがよいとの回答が2人で、講師名の候補も挙げていただいております。テーマの追加については、子育て支援・学校支援と、風力発電問題が挙げられております。回数については、6回で良いという意見が多数でした。時期については、いつでも良いという意見が8人と、多数を占めておりますが、私としては冬を迎える前までに実施したいと考えております。曜日についても、平日8人、土日2人となっておりますが、参加者に都合の良い日時を設定するのが肝要かと思えます。また、時間帯についても、午前と午後で大きく分かれております。

私からの修正案については、基本的に5回の実施で考えました。前回出ておりましたごみ問題については、石狩市は戸別収集になっており、ごみステーションの問題はほぼ無いということと、新港などへの不法投棄については地域コミュニティの課題には直結しないとの理由から、テーマとしては取り上げておりません。厚田・浜益のコミュニティの現状と市民の活動と、地域の若者の取り組みは一本化して、厚田で開催したいと考えております。石狩地区の方々と、厚田・浜益の方々が一緒に、地域がどんな課題を抱えているかについて学習し、交流してはどうかと思えます。参加者も一緒に現地で昼食をとり、厚田の見どころを紹介していただいて見学するなどした上で講座を開催すると、市民の皆様には楽しみながら参加していただけるのではないのでしょうか。移動についてはバスが必要ですが、場合によっては参加者の自己負担があっても良いと思えます。最後に、石狩市では、今後の社会教育を発展させる上で、社会教育施設がどんな役割を果たすべきか考える時期に来ているため、5回目に新たなテーマを設けました。

全体としては、「1回目 地域の高齢化と高齢者の孤立を防ぐ活動」、「2回目 地域における子育て支援」、「3回目 地域社会と学校支援」、「4回目 厚田・浜益のコミュニティの現状と市民の活動」、「5回目 石狩の社会教育と社会教育施設の役割」として、4回目までの講座の結果を踏まえて、石狩市の社会教育にはどんな課題があるのか、社会教育施設はどうあるべきか、全体の総括として、5回目にワークショップを交えた講座を開催してはどうかと考えました。

現在、文部科学省では、地域の社会教育に関する新たな施策をどう展開していくかについて、手詰まりの状態にあるというのが実態です。単に行政が地域住民のために学習機会やサービスを提供するのではなく、社会教育委員や公民館運営審議会、博物館、図書館の審議会が存在し、市民が地域について学ぶための重層的な仕組みがあって、なおかつ地域住民だけではなく、行政職員も共に学んで成長していくのが社会教育だと私は考えています。そこで鍵になるのは、一つ目に社会教育委員の活動であり、二つ目に社会教育専門職員が、地域住民の学習ニーズにしっかり応えられる専門性を身につけることが重要であると、文部科学省の見解として聞いております。そうしますと、今回のこの講座は、文部科学省にとっても、全国的に大切な取り組みになると考えられますので、文部科学省の協力が得られるかもしれませんし、それが難しい場合には、社会教育に詳しい大学の講師に来てもらうことなども検討したいと思えます。

提案した講座の実施にあたっての提案ですが、講座ごとに2～3人ずつ担当委員を決めて、講師にヒアリングを行い、コーディネーターと司会を分担するというのはいかがでしょうか。また、講座に参加していただきたい市民が誰であるかを考える必要があります。市議会議員、教育委員、民生委員なども対象になりうるのではないかと思います。子育て・学校支援であれば、参加者が来やすい時間帯などを、担当者ごとに話し合う必要があります。地域のリーダーとなりうる素質のある方は、皆様の周りに少なからずいると思われしますので、そういった方々に、参加を促してください。案としては、7月から10月の間で月1回程度ずつと考えており、社会教育委員の皆様全員に、いずれかの回にたずさわっていただきたいと思えますが、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

高橋美恵子委員：よほど魅力的な内容でなければ、なかなか参加者が集まらないのではないかと思います。

7月から10月の間は、主だった行事が集中する時期です。私自身も、関わっている行事がいっぱいなので、住民の参加者を集められるのかどうかわかりません。例えば、地域の高齢化と高齢者の孤立を防ぐ活動の回については、地域のお年寄りが自分の身近な場所に立ち寄って、自分自身が話せるような場所を提供できれば、参加者が増えるかもしれませんが、私達委員だけではなく、地域の住民もとなると、よほど行ってみたいと思うような内容にしなければなりません。

木村委員長：そのために、講座の内容を魅力的にする必要がありますので、講座で取り上げる内容や、講師を誰にするかなど、内容を充実させるアイデアを、皆さんで話し合って行きましょう。

古村委員：具体的な施設名は調べておりませんが、地域のための活動を展開している施設の職員などが、一番課題意識を持っていると思います。

木村委員長：私が案の作成にあたって高齢化をテーマに設定したのは、石狩市の場合は、昭和40年代に造成された団地に同時に入居したことから、同時に高齢化が進み、札幌市のベッドタウンとして造成された地域の中でも、かなり深刻な問題があるのではないかと考えたからです。実際に高齢者の孤立が問題になっているとすれば、実態はどうなっていて、孤立を防ぐような活動がどのように進められているのかを知ることは、石狩市全体として大切なことだと思います。例えば一人暮らしの高齢者が定期的に集まって食事会をしているといった事例でも十分に面白いですし、それを知ることは重要だと思います。

高橋美恵子委員：私自身は高齢者クラブに入っていて、子ども会と協力して、75歳以上の独居高齢者にクリスマスケーキを届けるという取り組みをしたことがあります。町内会の中に福祉部を作り、どんな活動をしていったら良いか検討し始めようとしているところです。

木村委員長：そういった取り組みがあることを共有できれば良いと思います。石狩市内にどんな課題があって、どんなユニークな取り組みがあるか、それを知るのがこの講座の大きな目的であると思います。

石井委員：講座をすることは良いと思います。私は石狩市に18年間住んでいながら、2年程前からやっと、自分のまちに馴染もうと努力し始めています。現実として、石狩市には約3千人の独居高齢者がいると聞きましたが、施設に入っている人は見守られています、在宅の独居高齢者がどこにどれだけいるのか全くわかりませんので、この機会に、まずは自分たちの地域の現状をきちんと知ることが先かなと思います。そこからスタートして、次の動きを考えることになるのではないのでしょうか。

高橋美恵子委員：そういった方々の事を取り上げる際に、個人情報の問題はないのでしょうか。

石井委員：実名を挙げると問題があるでしょうが、実際に困っている独居高齢者がどこの地区にどれだけいらっしゃる、という実態を知る事がまず大切だと思います。

木村委員長：個人情報の問題をどうクリアするのかについては様々ですが、全国的には、高齢者の側から自主的に自分の情報を提供して、地域に支えてもらうような仕組みを作っている例もあります。石狩市で、そういう事例が行われているのか、講座の中で取り上げられると良いと思います。

大橋副委員長：案では課題を大きく4つに絞っていただいております、最後の課題については、4テーマの議論を踏まえて、石狩市としてどう取り組んでいくかになると思いますが、私としては、今の4つの課題について、社会教育委員が自分で取り組みたい内容について、具体化できるかどうかも含めて検討していけば良いと思います。高橋委員が言われたように、難しい課題があれば、それをこの社会教育委員の会議で検討して、場合によっては、テーマもこの案の順番通りではなく、課題ごとの担当者数人で話し合っ、最も具体化しやすいところから取り組んで行けばいいのではないのでしょうか。内容的に、市民に声をかける前にまず社会教育委員が現状と課題を知る事が先であろうという内容であれば、委員だけで開催するというのもあり得ますし、まずは担当を決めて、グループの中で具体化に向けた検討をしてはいかがでしょうか。

山田委員：各回の担当委員を決めて、日程も含めた企画をするということですが、担当者が直接講師と折衝するということではよろしいのでしょうか。また、どのような参加者を対象とするかについてですが、現実的に、参加者を集めるのはなかなか大変だと思います。例えば、学校支援の回で学校の先生に来ていただければ良いのですが、これも実際に難しいのではないのでしょうか。これらの点について十分に検討する必要がありますが、いずれについても担当委員が責任を持って取り組むということでしょうか。

木村委員長：各回の動員人数まで担当委員にお任せするという訳ではありません。全体の考え方として、市民と一緒に学ぶという考えですので、学んだ結果、この問題を主体的に解決していく人が誰になるのかを考えて、その方々に案内を出すということで良いと思います。私としては事務局との打ち合わせの段階では、50人位のキャパシティの会場があれば良いと想定しております。

高橋たい子委員：流れについてはわかりました。5回というのが基本的な考え方だと思いますが、回数の増減についても検討段階ということですね。

木村委員長：あくまで提案の段階ですので、構わないと思います。

高橋たい子委員：50人の会場で5回分とのことですが、予算はあるのでしょうか。

東課長：会場については問題ありません。

古村委員：講師謝金についてはいかがでしょうか。

木村委員長：謝金については詰めておりませんが、もし捻出できなければ、予算をかけずに実施する方法を模索しなければなりません。

古村委員：色々な活動事例を共有するのは面白いと思いますが、それだけで終わらないようにするために、ワークショップをするなど、何か工夫をする必要があるのではないのでしょうか。

木村委員長：そのようにできると理想的ですが、全ての回に実施しようとする、非常に難しくなると思います。問題は、石狩市が今一体どういう問題を抱えているのかを知ることが第一だと思います。解決策の模索まで至るのは、そう簡単ではありませんので、まずは地域で取り組まれている事例や成果を、全体で共有することが重要ではないのでしょうか。解決策の模索まで至るのであれば、専門家を呼んで本格的に取り組む方法もありますが、予算もかかります。

古村委員：北海道医療大学に専門家の先生がおりますので、お招きできると良いのですけれど。

木村委員長：大学の講師招聘の段階までは考えておりませんが、もしお招きするとすれば、手弁当で参加していただくことも考える必要があります。基本的には、地域にどんな課題があり、どんなことを市民と一緒に学習していけば良いのかを、社会教育委員の皆様が考えるための講座でもありますので、講師にヒアリングをする準備段階から、既に学びが始まっています。おそらく、地域の実態についてまだ知らないことが多いと思いますし、石狩市の問題について、市民の皆さんと理解を共有する場と考えると良いと思います。

設楽委員：現在、私は小学校の校長をしておりますが、かつて、10年程前は社会教育の専門職員をしておりました。私達社会教育委員の任期は2年間ですが、こういった行政の審議会というものは、各団体や市民の代表とは言っても、事務局が提案したものをただ審議して、答申として通っていくだけというのが、実態としてありがちであると思います。その中で、社会教育委員の場合は、委員そのものが、まちの課題や活動などの具体的なものを見つけて、どのように変えられるかということ、行政を通じて伝えていくことだと言われています。あと10カ月の任期の中で、我々が主体的に取り組む活動があっても良いのでは、という考えのもと、15人の社会教育委員がひとつのことに取り組もうとしていることに意義があるのだと思います。当然、議論はあって然るべきですが、例えば参加者が50人集まらず10人だったとしても、それで良いのではないかと思います。我々が2年間の中で、石狩というまちについて学習する講座を企画するということが重要で、その結果は次期の社会教育委員の会議で活かされるかもしれません。私自身、この企画に参画できるのは非常に楽しみです、皆さんと議論を交わせることが学びになると思っています。

大黒委員：皆さん慣れていないので不安はあると思いますが、私も設楽委員と同意見です。

古村委員：例えばこどもコムステーションいしかりの理事長の話など、色々な事例を聞いて面白いと感じると思いますが、それだけではもったいないと感じます。解決策の模索までは行きつかないまでも、ある程度整理しながら議論したほうが良いのではないのでしょうか。講師とのヒアリングの時点で整理することも必要になると思います。

木村委員長：担当委員が講師と行うヒアリングの中で得られた結果をもとに、どんな進め方をするか整理していただく必要はあると思います。

高橋美恵子委員：そのヒアリングを私達が行うということですね。なかなか難しい気がします。

木村委員長：確かに難しい面があるかもしれませんが、こうして地域の方々に話を聞くというのは、面白いと思いませんか。

大橋副委員長：最初からテーマに沿った講座の企画、実施となると大変ですので、まずは担当ごとに分かれて検討し、その内容を全体で共有すると、他のアイデアも出てくるかもしれません。昨年、管内の研修会などに参加しましたが、よく恵庭市の社会教育委員の取り組みを耳にしました。恵庭市の場合は、諮問機関でありながら、自主的に恵庭市の色々な課題に取り組んでいるのです。テーマ4つ全てについて解決策を具体化するのは大変ですが、そのうちの少しでも具体化できれば、今年度中では解決できないことでも、来年度以降見えてくる可能性もありますから、まずは担当ごとに検討してみたいかがでしょうか。

佐久間委員：私もそう思います。担当ごとに分かれて検討するほうが、議論が進むのではないのでしょうか。

木村委員長：私はそれぞれの担当の進め方について、相談役を引き受けるつもりですが、もう一度委員全員が集まることができませんでしょうか。丁度良い時期に、あらためて社会教育委員の会議を開催できると良いのですが。

大橋副委員長：必要があれば、4グループから代表1人ずつと委員長が集まって調整してはいかがでしょうか。特に講師の依頼や、実施上の問題点など、各グループ内で出し合って、それを全体で持ち寄ってはいかがでしょうか。

木村委員長：提示案に補足いただき、ありがとうございます。3人ずつくらいのグループに分かれるということであれば、担当するグループを決めて、その後グループごとに協議いただきたいと思います。

高橋美恵子委員：グループによって、講師へのヒアリングの仕方は異なっても良いのでしょうか。

木村委員長：事情に合わせて様々であって良いのではないのでしょうか。

東課長：当日の講座をどのように進めるか、何か具体的なイメージはございますでしょうか。

木村委員長：少なくとも、講師が一方的に話す形式ではなく、15分位ずつ講師にお話しいただいた後、全体で質問や議論をして、最後にコーディネーターが話し合われた内容を確認する、というのが一般的かとは思いますが、当日の流れについても、講師とのヒアリングの結果に基づいて、各グループと私とで相談させていただく機会を持ちたいと思います。

古村委員：机や椅子など、会場のレイアウトは自由がきくのでしょうか。

東課長：日程が決まっていないので、会場も未定ですが、りんくるや公民館など、大抵は自由がきくと思われます。

木村委員長：グループ形式にして討論することも考えられますね。

古村委員：グループワークをするのが良いのではないかと考えておりました。

高橋美恵子委員：司会進行も担当委員がやるということですね。

木村委員長：そうです。それでは、各自どのグループを担当するか、決めてまいりましょう。

【担当委員の分担協議の結果】

テーマ1「地域の高齢化と高齢者の「孤立」を防ぐ活動」

高橋美恵子委員（リーダー）、石井委員、大黒委員、光川委員

テーマ2「地域における子育て支援」

古村委員（リーダー）、佐久間委員

テーマ3「地域社会と学校支援」

山田委員（リーダー）、宮田委員、相馬委員

テーマ4「厚田・浜益のコミュニティの現状と市民の活動」

大橋副委員長（リーダー）、青木委員、高橋たい子委員

テーマ5「石狩市の社会教育と社会教育施設の役割」

木村委員長（リーダー）、設楽委員

木村委員長：ヒアリングの日程については、事務局と相談してグループごとに決めてください。できれば、ヒアリングする日程を、他のグループにもお知らせいただいて、私も都合がつけば同行したいと思います。実施内容に変更がなければ、第1回目の開催時期を決めたいと思いますが、いつ頃がよろしいでしょうか。

西山社会教育主事：市広報の関係上、7月に開催するのであれば、原稿締切が迫っております。

木村委員長：第1回目は8月にいたしましょうか。8月、9月に2回ずつ開催して、10月に1回ではいかがでしょうか。

高橋美恵子委員：講師の候補者には、事前に話はされているのですか。

東課長：実際の交渉はこれからになります。

木村委員長：まずは事務局から連絡いただいて、ヒアリングに臨むということによろしいですか。第1回目の時間帯についてはどうでしょうか。

山田委員：講師への事前連絡や、受講申込の受付は事務局でよろしいのですか。

東課長：申込受付は事務局で結構です。市民公開講座という形で、市広報に掲載させていただきます。講師の候補者については、このテーマであれば、こういう方がいる、という案を提示させていただいた結果が、原案に掲載させていただいているもので、前回の会議で報告させていただいた通りです。実際にはまだ交渉は行っておりませんので、まずは事務局で前段の承諾をとらせていただきたいと思います。具体的な開催日とヒアリング日の調整については、各グループの担当委員に行っていただく、ということはいかがでしょう。

高橋美恵子委員：講座ごとにある程度の時期を決めておいた方がいいと思います。

木村委員長：当初は案の順番通りにと考えておりましたが、ご意見があれば変更いたします。厚田・浜益の回と、最終回については時間が長くなりそうです。講師がNPOの方であれば、勤務時間を外す必要もあるかと思います。準備や広報のタイミングを考えると、第1回目は8月の1週目あたりに予定いたしましょうか。地域行事などの日程がありますので、まずは大まかにきめ

て、私と事務局で詰めさせていただきたいと思います。なお、風力発電の問題についてご提案をいただいたのですが、これは今回の講座とは別にさせていただきたいと思います。

山田委員：風力発電の問題については、市民カレッジでも論議していたところです。明確にどちらかに偏った立場ではなく、中立な立場で考える必要があります。

木村委員長：それでは会議終了後、各グループで話し合ってくださいと思います。これで第1回目の社会教育委員の会議を終わります。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成25年 6月24日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純
